

## 解答

『一』

問一 平和

「まなぶ」が自ら取り組む行動であるのに対し、「教わる」は人からしてもらう受け身の行動であるから。

問二 生活のなかの身近な言葉を用いていないので、主体的に持続可能な社会に貢献するほかの様々なアイデアに結び付かず、「する」という言葉の意味をはつきりさせることもできない、という問題。

問四 製品などに、<sup>△</sup>的に見出す「<sup>△</sup>ができる能力。」

問五 「平和」の反対語を、日常生活のなかで自分が経験してきた言葉で説明しようと/orする」として、平和への理解を少しずつ明確にし、誰かに任せきりにせず主体的に平和に近づく方法を探すこと。

問六 エ

問七 ① 拝見 ② 地域 ③ 済〔む〕 ④ 不断 ⑤ 美辞

『二』

問一 I イ II ア III オ

問二 大会の結果がチーム全員の将来に影響するから思いきり投げるようにと、航太郎を焚きつけること。

問三 ウ

問四 オ

決勝戦で自分が原よりもいいピッチャーであることを内田監督に示すことができれば、自分にスカウトの話が来る可能性があること。

問六 ア

問七 大竹の言葉に一瞬の間を空けて返事をした息子の胸中を心配していたが、航太郎が大竹の身勝手さをよく分かった上で、菜々子の想像以上に自分の将来を見据えていることを知つて嬉しくなり、大竹の言葉など気にせず自分の目標のためだけに試合に臨んでほしいという気持ち。

『三』

① 座右 (承伏) ② 承服 (承伏)  
 ③ 飼料 ④ 去就 ⑤ 貯水池  
 ⑥ 裹腹 ⑦ 比類 ⑧ 供述  
 ⑨ 移植 ⑩ 雜穀米  
 ⑪ 折半 ⑫ 挿発 ⑬ 追従  
 ⑭ 修養 ⑮ 借景